



東京赤坂ロータリークラブ週報  
Weekly Report

2025～2026年度クラブテーマ  
会長 鈴木貞史

「仲間を増やし、手を携えて」

本日の例会:2026年4月17日 通算1796回 本年度 第31回

場所:ANAインターコンチネンタルホテル東京 地下1F「オーロラ」

第5回クラブ協議会

第1795回 例会報告 2026年4月10日

出席報告 会員45名 / 出席31名

ゲスト 村上昌隆 (卓話)、高橋信昭  
計2名 (順不同・敬称略)

卓話 ガンショップジービー副社長 村上昌隆氏

テーマ 日本の銃器スポーツ

村上昌隆氏より、「日本の銃器スポーツ」をテーマにご講話をいただきました。村上氏は長年にわたり銃器業界に携わり、射撃競技および狩猟の分野に深く関わってこられたご経験をもとに、日本における銃の位置づけや現状について詳しくお話しくださいました。日本では銃の所持が厳しく制限されている一方で、適切な管理のもとでスポーツや狩猟として活用されている実態や、その歴史的背景についてもご紹介いただきました。また、射撃競技が技術のみならず精神力を求められる奥深いスポーツである点や、狩猟が野生動物の増加に伴う社会課題の解決にも寄与している点など、普段触れる機会の少ない内容を具体的に学ぶ機会となりました。

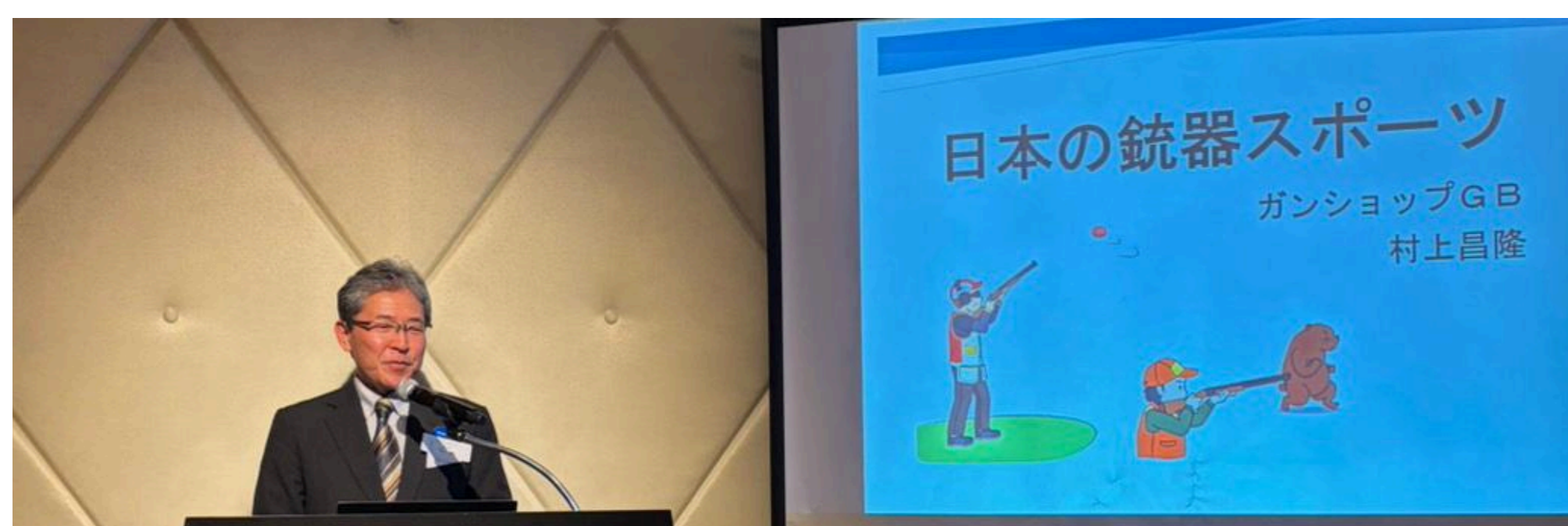
(文責:石井敬介)



卓話者 / 村上さん



紹介者 / 石井副会長



4月10日 9件 / 18,000円 累計938,000円  
多額の寄付を有難うございました。(敬称略)

鈴木貞史 / 石井謙次 / 谷口友保 / 長谷川毅 / 高須康有 /  
金山驍 / 佐藤仁 / 穂苅裕久 / 西澤民夫



ニコニコメッセージ(抜粋/敬称略)

鈴木貞史 村上様卓話楽しみにしておりました。

石井謙次 村上さん本日の卓話宜しくお願い致します。

日本聴導犬協会 訪問報告書

日時 2026年3月25日 (水) 13:45～16:00

場所 社会福祉法人日本聴導犬協会(長野県上伊那郡宮田村)

参加者 次年度会長 金山驍、次年度幹事 出川敬司、  
本年度奉仕プロジェクト委員長 (次年度副会長)  
岩上義明、前年度奉仕プロジェクト委員長 (次年度  
記念誌委員長) 浅沼洋一

2026年3月25日、社会福祉法人 日本聴導犬協会を訪問し、同協会の活動内容および運営状況についてヒアリングを実施した。(ご対応:会長 有馬もと様、スタッフの方々)本視察は、創立40周年記念事業として「聴導犬支援」を企画し、その検討の一環として実施したものである。

■ 聴導犬及び施設について

聴導犬は、主に保護犬から候補犬を選定する。聴導犬の育成には約1年2か月程度を要し、最終段階ではユーザーが長野の施設に7日から10日程度滞在し、共同訓練を行う。(盲導犬は28日)また、聴導犬およびユーザー双方に認定試験が課されている。

育成にあたっては「食う・寝る・遊ぶ」を基本とし、栄養管理を含めた丁寧な飼育が行われている。

現在、施設内(施設敷地面積650坪)には約10頭、ボランティア預かりを含めて約20頭の候補犬がいるが、ユーザーへ提供可能な聴導犬は現在4頭である。

全国には約18の関連団体が存在するものの、毎年安定的に聴導犬を輩出している団体は、日本聴導犬協会を含め2団体にとどまり、継続的な育成体制の確保は容易ではない状況である。日本聴導犬協会の30年間の提供実績は、44頭である。

人員体制としては訓練士8名が在籍し、協会内で養成も行っている。

犬の訓練のみならず、手話や理学療法など周辺分野についても学習しており、専門性の高い体制が構築されている。

### ■ 財政面や支援状況など

財政面では、聴導犬1頭あたり約300万円の育成費用がかかり、運営は主に寄付によって支えられている。

海外企業からの支援は一定程度ある一方、日本企業からの支援は十分とは言えない状況である。

また、障害者団体等へのデモンストレーションや講演活動を年間20～30回程度実施しており、普及啓発にも継続的に取り組んでいる。

聴導犬は、聴覚障害者の生活における安全性向上や孤立の解消に大きく寄与し、災害時の対応力向上にも資するなど、社会的意義は極めて大きい。現在、聴覚障害者は36万人(障害者手帳保持者)、潜在は650万人である。当日はデモンストレーションを通じて、呼び出しや起床補助等の具体的な支援内容を確認した。

聴導犬支援に関しては、「赤坂1号」としてのネーミング案を提示し、聴導犬用ベストへの表示費用として片面100万円、両面200万円が必要との説明を受けた。

以上を踏まえ、同協会は高い専門性と社会的意義を有する活動を継続している一方、財政面では寄付への依存度が高く、支援基盤の拡充が課題となっている。(補足: 4,700万円(令和6年度)程度の収入があるが、赤字が続いている。令和7年度の会計は未了であるが、基本給のアップや光熱費、フード、諸経費の高騰など、収入よりも、支出が上回っているとのことである。)

なお、経理体制は税理士により適切に管理されている。



### ■ 今後の取り組みなど

今後の具体的な取り組みとして、当クラブ例会場受付への聴導犬募金箱の設置を検討するほか、風の子会等へのデモ依頼については40周年委員会にて確認・検討のうえ対応することとする。

さらに、2026年12月7日の記念式典に際し、有馬会長にご出席いただくよう要請を行った。

当クラブとしても、今後の支援の在り方について検討を進めることが望ましいと考えている。

(発表:岩上・浅沼、発表用パワーポイント作成:出川)  
(訪問報告書作成:金山)



## 火曜会

日時 2026年4月7日（火） 18:30～20:30

場所 ホテルニューオータニ東京・ガンシップ

出席者 鈴木貞史、浅沼洋一、石井敬介、石井謙次、岩上義明、永滋康、金山驍、熊本誠司、倉成雄介、高須康有、西澤民夫、長谷川毅、出川敬司  
計13名（敬称略、順不同）

今月の火曜会は、来期親睦委員長の永会員、来期広報IT委員長の倉成会員、会長エレクトの長谷川会員など、次年度を担うメンバーの参加もあり、フレッシュな雰囲気の中でスタートしました。

西澤会員からは前立腺に関する最新の医療技術についての紹介があり、再生医療をはじめとした専門的な話題が次々と展開され、知的好奇心を刺激されるひとときとなりました。

また、石井謙次副会長からは、今週末に予定されている親睦旅行への期待が語られ、訪問先である出雲・松江の話題に会話が弾みました。

さらに、長野県の聴導犬協会への視察を終えた奉仕委員長の岩上会員、前期奉仕委員長の浅沼会員、次年度会長の金山会員より報告があり、支援に向けた具体的かつ活発な意見交換が行われました。特に、次年度社会奉仕リーダーの熊本会員からは、地区補助金活用に向けた手続きを早急に進めたいとの建設的な提案が示されました。火曜会は、当クラブならではの「居心地の良さ」と「仲間とのつながり」を実感できる交流の場です。引き続き、多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

なお、次回は今年度最終の火曜会として、5月12日（火）に開催予定です。

（親睦委員会 出川）



## 今後の予定

日付	時間	場所	事項	内容
4月24日	12:30 13:30	37F「アリエス」 ANAインターコンチネンタルホテル東京	例会	一般社団法人カラフルバード 理事長 宮崎舞氏
5月1日	休会			
5月8日	休会			
5月12日	18:30 20:30	ホテルニューオータニ東京 ガーデンコート4F ガンシップ	火曜会	火曜会
5月15日	12:30 13:30	地下1F「ギャラクシー」 ANAインターコンチネンタルホテル東京	例会	元米山奨学生 メコネンさん
5月22日	12:30 13:30	37F「アリエス」 ANAインターコンチネンタルホテル東京	例会	NPO法人藤堂栄子会長
5月29日	12:30 13:30	地下1F「オーロラ」 ANAインターコンチネンタルホテル東京	例会	狂言と家元 大藏彌太郎先生

東京赤坂ロータリークラブ / ● 会長：鈴木貞史 副会長：石井謙次 幹事：谷口友保 会報リーダー：石井敬介